

今回PCIトラブルシューティングについてディスカッションを行ったが我々はLAD本幹に対してのPCIにおいて中隔枝にprotect施行した後に中隔枝にPOBA施行したがバルーン回収不能になった症例についてであった。

今回この症例においてどのように対応していくかを話し合ったが実際に私自身が経験不足であったため、どのように対応するか瞬時に思いつかなかった。

今回出された提案としてはスネアにて回収。ワイヤーを複数入れてからめとる。カテをdeep engageさせてゆっくりと引き抜く。そもそも中隔枝に対してはPOBAの必要はなかったのでは？という意見であった。

このなかで、まず思いついたのはであったがこれはきっと誰でも思いつくことで大事なものはこれがだめであったときの次の方法、よりいい方法がないかを切迫した状況の中で冷静に考えることができるかどうかである。そうなるためにはやはり多くの経験をつむことが大事ではあると痛感させられた。

今回この症例においては実際にはの方法では対処できず結局バルーンを一本だし、ガイディング内で拡張してから引き抜くことで回収できたとのことであった。

こういったトラブルシューティングの対処法は実際にはなかなか経験できないことであるし、また実際にこういった場所で多くの人とディスカッションすることもないため大いに有意義な講義であったとおもう。本症例以外にもNo flowやカテ操作にて引き起こした大動脈解離などの対処法なども実際の症例を交えて勉強することができ、すぐにでも実践に使うことができる知識を得たことができ、経験が少ない私自身には非常にためになりカテに対して少し自信をもてるきっかけになったと思う。